

飛鳥びと

2026年
春・夏号
No.22

p2 スペシャルインタビュー

歴史に命を吹き込むマンガ家 里中 満智子

p5 こちらもぜひ「高松塚壁画館」

ゆかしき言の葉「夏来るらし」井上さやか

p6 令和あすか塾《特別寄稿》東影 悠

飛鳥浄御原宮の大型建物の構造と機能

p7 飛鳥の若びと

中島伸弥(トブトリノ焙煎所店主)

題字／鳥頭尾 精
写真／「悠久の瀬音」田中嘉宏
「明日香路を写そう写真コンクール」第39回明日香路賞作品

活動報告

〈帝塚山大学連携イベント〉 飛鳥の考古学「渡来系氏族・鞍作氏と坂田寺」

令和7年9月21日に帝塚山大学との連携で、同大学文学部教授の清水昭博先生による公開講座&ウォーク「飛鳥の考古学」を実施しました。午前中は座学講義。まずは、坂田寺を建立したといわれる鞍作多須奈(德音)、日本初の出家者の鞍作鳴(善信尼)、有名仏師の鞍作鳥(止利仏師)など、渡来系氏族・鞍作氏一族の人物像についてのお話です。鞍作氏は飛鳥の歴史に欠かせない重要な人物を輩出した氏族でした。

次に坂田寺の歴史についてのお話がありました。午後は、座学で教えて頂いた坂田寺へ向かう臨地講座。道中、古い「橋寺」の歴史や伽藍、寺の立地などのお話とともに、出土した瓦や埴輪の解説をして頂きました。その後「マラ石」から「坂田寺跡」、「都塚古墳」の順に巡りました。最後は石舞台展望台まで歩き、展望台で「石舞台古墳」のお話を伺って終了。ウォーキング日和のお天気でした。

帝塚山大学文学部教授・考古学研究所長の清水昭博先生



都塚古墳



坂田寺跡

奈良大学文学部教授の相原嘉之先生



高松塚古墳



中尾山古墳



活動報告

〈奈良大学連携イベント〉 飛鳥周遊ウォーク「飛鳥の古墳を巡る」

令和7年10月19日に奈良大学との連携ウォークイベント「飛鳥の古墳を巡る」を実施しました。同大学文学部教授の相原嘉之先生と、明日香村内を1日かけて歩きました。まずは国宝キトラ古墳壁画(玄武)公開の見学からスタート。その後「キトラ古墳」、「高松塚古墳」を巡り、「高松塚壁画館」を鑑賞の後「中尾山古墳」を見学。こちらは当時の天皇の墓を示す八角形の古墳で、火葬墓であることから、学者の間では文武天皇

の真陵であるとほぼ一致しているとのことでした。午後は「天武・持統天皇陵」を見学し、「鬼の俎雪隠古墳」「カナヅカ古墳」「欽明天皇陵」「岩屋山古墳」と西へ西へ歩を進めました。風水思想により、尾根に囲まれたコの字型の複雑な地形を利用して王家の墓が連続的に造られています。そして「牽牛子塚古墳」と「越塚御門古墳」を見学して終了。最後に虹を見ることもできた幸せな一日でした。

活動報告

無住社寺の修復や文化活動に 助成しています

令和7年11月25日、古都飛鳥保存財団事務局にて助成目録授与式を行いました。無住社寺等の修復事業助成として1件(明日香村豊浦大字の西念寺)、地域住民の文化向上事業等に対する助成として3件(明日香村文化協会、明日香村伝承芸能保存会、明日香村商工会)の目録授与式を行いました。明日香村の歴史的風土、景観を維持するため、財団では無住社寺等に対して修復費の一部を補助しています。また伝承芸能の保存や後継者の育成、地域住民の文化向上活動などにも助成をしています。



お知らせ

個人特別会員募集のご案内

令和8年度は、古都飛鳥保存財団設立55周年、財団が運営する高松塚壁画館が開館50周年を迎えます。さらに、平成8年(1996)から始まった会員制度も今年30年を迎えました。大変ありがたいことに、開始当初から継続いただいている方もいらっしゃいます。当財団は、飛鳥地方に残る貴重な歴史的文化遺産の保存とその活用を目指し、様々な事業を行うとともに、後世に引継ぐことを使命に活動しております。その保存と未来への継承のため、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。詳しくは財団ホームページをご覧ください。



申込・詳細はこちら

Panasonic



発行・お問合せ 公益財団法人 古都飛鳥保存財団

〒634-0138 奈良県高市郡明日香村大字越13-1 TEL:0744-54-3338 FAX:0744-54-3638 E-mail:info@asukabito.or.jp

編集制作／合同会社EditZ

※本誌の記事、写真の無断複写・転載を禁じます。※本誌記載内容は2026年3月現在のものです。

公式HP



公式 Instagram



KOTO_ASUKA

歴史に命を吹き込む マンガ家



里中 満智子

さとなか まちこ

大阪府出身。高校在学時に「ピアの肖像」で第1回講談社新人漫画賞を受賞しデビュー。代表作に「あした輝く」「アリエスの乙女たち」「あすなろ坂」「天上の虹」など多数。2006年、全作品および文化活動に対し、文部科学大臣賞受賞。2023年、文化功労者に選出。日本漫画協会理事、マンガジャパン代表理事、大阪芸術大学キャラクター造形学科教授、古都飛鳥保存財団理事。

歴史への深い洞察と温かな眼差しで、数々の名作を生み出してきたマンガ家、里中満智子さん。奈良を舞台にした『天上の虹―持統天皇物語―』など、年齢性別を超えて読者の心をつかんで離しません。思春期の頃に大きな影響を受けたという『万葉集』と、飛鳥への思いを聞きました。

『天上の虹』はどのようにして生まれたのですか？

大好きな『万葉集』の世界を描きたいと思ったのがきっかけです。万葉歌を取り上げやすくするため、主人公は歌人たちと接点があり、事実関係もある程度わかっている人物がいいなと考えました。加えて、これまで小説やマンガの主人公になっていない人なら、イメージに囚われずに描けると。行き着いたのが持統天皇でした。

当時いろいろな文献を読みましたが、持統天皇は良く書かれてなくて。「父・天智天皇や夫・天武天皇の七光りで権力を手にした」とか、「自分が天皇位に就きたくて息子を暗殺した」とか。一番頭にきたのは「子どもが1人だけなのは、夫に愛されてなかったからだろう」というもの。

ひどい決めつけです。受胎能力と夫婦の愛情はイコールじゃないのにね。『万葉集』に残された持統天皇の歌を読むと、構成がしっかりとしていて、冷静な人であることが見てとれます。でも唯一、夫の葬儀の際に詠んだ歌だけは切々たる感情にあふれていて、この人を描きたい、と思いました。

『万葉集』のどんなところに惹かれますか？

中学生の頃、初めて『万葉集』を読んであれっ？と思いました。男性が失恋を嘆き、女性の言動に振り回されている。教わってきた「昔の日本男児」「自分の意見を言えなかった女性」と全然違っただけです。そして男女や身分の差にかかわらず、作品だけで歌が選ばれている。それこそ



天皇から政治犯まで。民主主義という言葉も無い時代に、誰が、どんなつもりでこんな歌集を作ったのだろう。この歌を作った人たちはどんな人生を送ったのだろう。好奇心が止まりませんでした。

ある時、授業で有間皇子の「家にあるば笥に盛る飯を草枕旅にしあれば椎の葉に盛る」という歌を習いました。先生は、「家だと椀に盛るご飯を、旅の空の下だから葉っぱに盛る。ピクニックの歌だ」と言ったのですが、とんでもない。万葉歌には様々な注釈が付いていて、それを読むと、謀反の罪に問われて護送される途中で作った歌だとわかりました。

この時、有間皇子はまだ10代。死を予感して詠んだ歌に、ああ、生きたかったらうなど近さを覚えました。歌には、そういう力があるんです。

『万葉集』は日本語。声に出して落ち

着いて読めば、大体的意味はわかります。人の気持ちは千年ぐらいいは変わらないというところにも気づくでしょう。胸を張って「世界記憶遺産」に推したい歌集です。

忘れられない飛鳥の思い出は？

高松塚古墳やキトラ古墳が発掘された時の感動を、昨日のように思い出せます。秦始皇帝陵など比べると小さなお墓ですが、絵がとても緻密なんです。キトラ古墳では天井に宇宙を描いて無限の広さを表現していますし、高松塚古墳の壁画に描かれた女性のスカートの線の筆運びを見ると、腕の立つ人が描いたことがわかります。

個人的に好きな場所は、天武・持統天皇陵です。『天上の虹』を描こうと決めた



1) 『天上の虹』コミックス最終巻の表紙絵。持統天皇物語を結ぶにふさわしい壮麗で美しい表紙絵です。
2) 『天上の虹』の連載は1983年にスタートし、32年をかけて2015年に最終巻が刊行された大作。コミック全23巻、文庫版全11巻。
3) 『天上の虹』の名シーンの数々。圧倒的な世界観と、ハラハラドキドキする臨場感に誰もが足を止め、見入っていました。
1)～3)の写真はすべて「奈良県立図書館情報館20周年記念『里中満智子展』」にて撮影。

こちらぜひ

里中満智子さんも感動!

高松塚壁画館

- 1) 壁画を忠実に再現した「現状模写」。四神や人物像、天井には星宿図が描かれています。
- 2) 高松塚古墳。7世紀末から8世紀初頭にかけて築造された二段式の円墳。
- 3) 古墳と同じ材質を使用した「再現模造模写」。色や筆使いをじっくり見ることができます。
- 4) 館内には副葬品のレプリカも展示されています。

壁画のほかに、棺を納めていた石槨の模型なども展示し、高松塚古墳の全貌をわかりやすく紹介しています。

高さをおもったため実感できます。1300年以上前の絵師の技術の高さをあらためて実感できます。

特に「飛鳥美人」として有名な西壁の女子群像は必見。そのスカートの筆致を、里中さんはマンガ家ならではの視点で「迷いのない線」と称賛しています。高松塚古墳の全貌をわかりやすく紹介しています。

昭和 47年(1972)に発掘された高松塚古墳。内部に描かれた極彩色の壁画は、日本で初めて発見された古代壁画であり、「世紀の大発見」として日本中の注目を集めました。

実物の壁画は国宝に指定され通常非公開ですが、古墳に隣接する高松塚壁画館では、複数の日本画家が発見当時の壁画を精密に模写した「現状模写」をはじめ、剥落や汚れを加減した「一部復元模写」、凝灰岩に漆喰を塗り再現した「再現模造模写」を観ることができます。



蓮が咲き誇る夏の藤原宮跡。奥に見えるのが香具山

天武との間にもうけた草壁皇子が

飛鳥と『万葉集』
ゆかのしき葉
言の葉

夏来るらし

春過ぎて 夏来るらし

白栲の衣乾したり 天の香具山

(巻一・二八 持統天皇)



奈良県立万葉文化館 井上さやか 博士(文学)。専門は「万葉集」を中心とした日本文学・日本文化。現在、奈良県立万葉文化館企画・研究係長。近著に「中西進と万葉画を楽しむ」(淡文社)など。

この歌は、「春も終わり夏がやって来たらしい。白い衣が干してある。天の香具山よ。」と、夏の到来を表現した歌です。生活にもとづく季節感ではなく、古代中国で生まれた観念的な四季を詠んだ和歌としては、最古の例といわれます。

作者である持統天皇は、天武天皇の皇后として「壬申の乱」後の国づくりに支え、天武亡き後は、その遺志を継いで律令にもとづく中央集権国家を完成させた人物とされます。中国式の暦が導入されたのも、持統の時代でした。

天武との間にもうけた草壁皇子が

皇位に就く前に亡くなったため、自らが即位し、孫の文武天皇に生前譲位したことで知られます。その過程で、甥にあたる大津皇子が謀反の疑いで刑死したことなどから、従来は「非情の女帝」と評されてきましたが、里中満智子さんの『天上の虹』では、思いがけず国を背負うこととなり葛藤しながら生をまっとうする一人の女性として描かれました。

鎌倉時代に成立したとされる「小倉百人一首」には小異歌が載っていますが、むしろそちらの方がよく知られているかと思えます。父にあたる天智天皇とともに歌が採られたのは、光仁天皇以降の皇統が天智系となっていたことに拠るとみられます。

この歌の歌碑は、藤原宮跡や天香山神社(いずれも奈良県橿原市)だけでなく、宮城県、愛知県、兵庫県、香川県、愛媛県にも建立されており、時代や地域を越えて愛された歌だといえそうです。



奈良県立図書情報館で2025年11月に開催された「里中満智子展」の様子。精緻な筆使いを再現した拡大原画プリントが並びます。「衣装の模様は、東大寺や薬師寺の幅(ばん)を再現した京都の染色家、吉岡幸雄さんの工房で教わったことや、正倉院御物を参考にしました」と里中さん。

時に挨拶に伺い、連載中も何ては、「何か変なところがあれば、どうか出てきておっしゃってください」とお願いしていました。描き上げた後も「長い間お世話になりました」と報告に伺ったのですが、とうとう一度も出てこられませんでした。ですから、あれで良かったのかなと勝手に解釈しています(笑)。

飛鳥を訪れる方に、
何を感じてもらいたいですか?

万葉の時代の人々が歩いたであろう道や、見たであろう風景がほぼ残っていて、当時にタイムスリップできるのが魅力です。「ここはあの人が、彼女の元へと通った道かもしれない」と思うと、万葉歌人がとても身近に感じられますよ。

そして役所機能を備えた都づくり、歴史書の編纂、律令制の整備...など。飛鳥・奈良時代は、日本の近代化が成し遂げら

れた時代です。でも、だからといって権威を永久にとどめようとはしていません。これは、この時代から小さくなったお墓のあり方からもうかがえます。

そもそも古墳にしても、作った後は自然任せで、やがて森になり、土と同化していきます。すべての命はやがて自然に還るといって考え方の象徴ですよ。

日本の国土は狭いですし、人類発祥まで遡れば、どの土地にも誰かが眠っています。そうして積み重ねられてきた人々の思いや営みの上に、今の私たちがいる。飛鳥を訪れて、そのことを感じていただけたら私も嬉しいですよ。

4) 執筆中にも何度か訪れたという天武・持統天皇陵。
5) 「万葉集」を中心とした古代文化に親しみ、学ぶことのできる奈良県立万葉文化館。2001年の開館と同時に発足した「友の会」は17年半にわたって活動し、解散。里中さんはその2代目会長。
6) 里中さんが会長時代にイラストを添えて揮毫した万葉歌碑。「いろんな人の思いが一緒になった歌碑です」。万葉文化館の駐車場にあります。



飛鳥の風を封じ込める焙煎士

日本を旅してたどり着いた



1



2



3



4



「飛鳥には来てから『万葉集』に興味を持つようになりました」と中島さん。

「トブトリノ焙煎所」店主
中島 伸弥
なかじま しんや



5

「奥」 飛鳥と呼ばれる明日香村稲淵に2021年に移住した中島伸弥さん。自家焙煎のコーヒー店「トブトリノ焙煎所」を営んでいます。

中島さんは27歳から3年かけて徒歩で日本一周しました。世界遺産をはじめ各地の名所など日本中を巡るなかで、日本文化や歴史に深く興味を持つように。九州から中国、近畿へは、日本神話の神武東征のルートをたどり、日本人の杜寺や自然への崇拜の心を直に感じたそう。

旅を終え、鹿児島県で和食の料理人として働いていたとき、コーヒーの焙煎や抽出などを独学で学び、見識を広げました。コーヒーに魅了されたのは、日本一周に出る前に就いていた相談援助職時代。職場で、見よう見まねで初めてコーヒーの抽出を行った際、利用者さ

んたちがとても喜んでくれたことで、「コーヒーで人を幸せにできるんじゃないかなと思ったんです」。

そして自分らしいコーヒーを表現する場所として選んだのが、明日香村でした。日本中を歩いた中島さんがたどり着いたのは、日本の原風景が残るはじまりの地。「古代の自然や文化が色濃く残る飛鳥に、大きな魅力を感じました」。

「トブトリノ焙煎所」では、気候や湿度の変化を見極めながら厳選したコーヒー豆を自家焙煎し、飛鳥の空気ごとパッケージングしたドリップバッグを販売しています。注文後に、焙煎・熟成・粉碎密封を行う完全受注生産。2022年からは喫茶「何必庵」を営み、まるで茶道のように、美しい所作で丁寧に淹れられたコーヒーをいただくことができます。「四季の彩りが残る飛鳥で、コーヒーを五感で感じていただければ嬉しいです」。

トブトリノ焙煎所

住所/高市郡明日香村稲淵1109
[何必庵]は完全予約制、1名4,000円(4名まで)
1名で利用の場合は4,500円

- 1) コーヒーのお点前を披露する中島伸弥さん。
- 2) 明日香村の地形をイメージして作庭されたお庭。
- 3) ドリップバッグには焙煎した日付や天気、二十四節気などを記載。そこに飛鳥の風景写真と、中島さん自作の和歌が添えられます。
- 4) 週に一度焙煎し、その後じっくり熟成させて密封します。
- 5) この日のコーヒーはマンデリンの深煎。香りがふわっと鼻に抜け、雑味がなく甘みが広がります。

「飛鳥・藤原まるごと博物館」検定 合格への道

北海道から飛鳥を推す!

北海道在住の児玉結香さんは、第1回検定で初級編に合格し、第3回検定の中級編を受検されました。毎回飛鳥・藤原会場まで足を運ばれる児玉さんに、検定にまつわるエピソードをお聞きました。



児玉結香さん。「飛鳥が好きで、検定は自分試しに受けてみました」。

検定に向けてどんな勉強をしましたか?
公式テキストはもちろん、観光案内所でいただける冊子や地図を活用しました。特に大きな地図は各所の位置関係がわかりやすいです。中級編はテキスト外の出題が30%もあるので、YouTube動画や過去に自分が訪れた時の写真など、視覚的に印象を残す勉強法も併用しました。

意外な問題はありましたか?
受検前日の散歩中に、たまたま立ち寄った祠が出題されました。ラッキーと思ったのと同時に、日常の中に出題されるネタが散りばめられている飛鳥の地域性にあらためて感動しました。

受検される人にアドバイスがあれば教えてください。
コツコツ積み重ねることがとても大事。次回受検する自分に対しての喝ですね(笑)。

飛鳥で好きな名所はどこですか?
持統天皇の吉野通いを想像しながら歩いて芋峠越えたのが楽しかったです。民家に隣接するマルコ山古墳も人と歴史が共存している感じが飛鳥らしくていいですね。

読者にメッセージをお願いします。
北海道に住んでいても飛鳥を遠い地と感じたことはなく、むしろ好きな分だけとても身近に感じています。今、世の中は推し活ブームですが、「飛鳥推し」として、これからも飛鳥を応援し楽しんでいきたいですね。

次回、第4回検定は2026年12月実施(予定)!



大型掘立柱建物SB0934と総柱建物SB02402(西から)



大型掘立柱建物SB0934の柱穴(2009年度調査時)

令和
あすか塾
《特別寄稿》

飛鳥浄御原宮の
大型建物の構造と機能

史跡飛鳥宮跡の発掘調査

飛鳥宮跡では、Ⅰ～Ⅲ期の3時期の飛鳥時代の宮殿遺構がほぼ同じ場所に重複して存在する。最下層に位置するⅠ期遺構が舒明天皇(在位629～641年)の飛鳥岡本宮、その上にあるⅡ期遺構が皇極天皇(在位642～645年)の飛鳥板蓋宮、最上層にあたるⅢ期(天智天皇(在位645～661年)・天智天皇(在位668～671年)の後飛鳥岡本宮、Ⅲ期が天武天皇(在位673～686年)・持統天皇(在位690～697年)の飛鳥浄御原宮と考えられている。

飛鳥宮跡の発掘調査は1960年度以降、檀原考古学研究所が継続的に実施しており、1972年には国史跡に指定された。2024年度の調査は191回目の調査にあたり、飛鳥宮跡Ⅲ期の内郭(宮の中心にある掘立柱建で囲まれた天皇の公的空間と私的空間)の北西隣接地に位置する。主要な調査目的は、2009年度の調査でその一部を確認した大型掘立柱建物SB0934

の構造を確定することであった。

飛鳥宮跡最大の建物を確認

大型掘立柱建物SB0934の南東部を調査し、正方位の四面廂建物で、東西11間(約35・4m)×南北5間(約15m)であることが確定した。これまで飛鳥宮跡最大の建物は、エビノコ郭の正殿である掘立柱建物SB7701(四面廂・東西9間(約29・2m)×南北5間(約15・3m)であったが、SB0934はこれを上回る飛鳥宮跡最大の建物になる。SB0934の柱穴は平面が一辺約1.7mと大きく、深さも約2mと深い。柱と柱の間の距離は約3mを基本としているが、東西方向の外から2つ目の空間(脇間)は東西ともに約4.2mと広い。出土遺物や周辺の遺構の様相から、SB0934はⅢ期の飛鳥浄御原宮の建物と位置付けられる。

SB0934の約2.4m南には、総柱建物SB02402が展開することが新たに判明した。SB0934と南北の柱筋が全て一致することから、Ⅲ期に

2棟の建物が近接して並んでいたことになる。2024年度の調査ではSB02402の一部を確認したのみであり、全体の規模は今後の調査によって確認しなければならぬが、北のSB0934は側柱建物、南のSB02402は総柱建物と構造が異なる点は興味深い。

飛鳥浄御原宮の大型建物の系譜

四面廂建物で脇間が他の柱間よりも広いという特徴は、平城宮の内裏Ⅰ期の御在所正殿や内裏正殿などにみられ、SB0934は平城宮の内裏建物の先駆けと評価できる。SB02402の約12m南でも、SB0934およびSB02402と南北の柱筋が一致する南北2間の東西に細長い建物があることが過去の調査で判明している。内郭の北西隣接地においては柱筋を揃えた南北3棟の建物が計画的に配置されていたことになる。これら大型建物は、Ⅲ期の飛鳥浄御原宮の段階でエビノコ郭が内郭の南東に造られたこととも連動した動きであった可能性が高い。



奈良県立檀原考古学研究所 東影 悠

同研究所調査部調査課調査第二係長。大阪大学大学院博士前期課程修了。博士(文学)。専門は日本考古学。主に埴輪の分析から古墳時代における手工業生産の労働力編成や王権との関わりを研究。桜井茶臼山古墳、飛鳥京跡苑池、飛鳥宮跡など、日本の国家形成に深くかかわる遺跡の発掘調査を担当。